

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	千葉大学	整理番号	1903
プログラム名称	革新医療創生 CHIBA 卓越大学院		
プログラム責任者	中谷 晴昭	プログラムコーディネーター	斎藤 哲一郎

卓越大学院プログラム委員会における評価

[総括評価]

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、全学で推進するクラスター制 CHIBA 教育システムというコンセプトに基づき、革新医療につながる様々な研究領域で構成された複数の学問分野を、トリプル指導教授とラボレーションで教育するという体制がよく機能している。この体制は、プログラム発足当初から変更なく実施されており、当初のプログラムの完成度の高さを示すもので、高く評価できる。

修了者の成長については、補助期間を通して 10 倍近い高い競争率の中から選抜された少数精鋭の学生は、新しい研究分野に対してチャレンジして多くの成果を上げている。そのことの自己評価は、学生と教員やメンターの間で共有して議論されており、年次を追うごとに、満足度と成長の実感が増加するという結果になっている。また、海外連携や国際的なセミナーを行うことにより、面談した学生のほとんどが海外でのキャリアを希望しているということも印象的であった。

キャリアパスの構築については、もともと医学系の専攻を主体としたプログラムであるが、薬学の学生の比率も高く、さらには、医学に関連する工学や理学の学生も徐々に増加しており、これらの多くの分野から集まった学生に対して、一つの専攻から学位を授与する仕組みを構築したことは高く評価できる。海外大学とのダブルディグリー制度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響も大きく、苦戦をしたが、チャレンジは継続しており、学位の取得までしっかりサポートして、次に続く学生の目標や大学院の魅力の一つとなることを期待したい。

大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、全学のクラスター制 CHIBA 教育システムのパイロットプランとして実施した本プログラムが、補助期間を通して大変高い評価を得ており、それを構成したグッドプラクティスが全学の取組に展開されることを期待したい。特に、同時に採択された「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」とは、すでに教員、学生の各々の交流も実施され、相乗効果も得られていることも評価できる。コラボレーションの深化により双方にさらなる成果がもたらされることを期待する。